

昭和47年5月31日

各盲学校 殿

盲体育ボールゲーム研究会

盲弱混合形態による体育科の球技についての資料が出来上がりましたので、御送付致します。

内容等について、御検討、御批判いただければ幸いです。また同封致しましたアンケートは、盲体育における教材の精選化の資料に致したいと思っておりますので、御記入の上、御手数ながら転送していただければ幸いです。本アンケートと集約しどい貴校に送付致したいと思っております。

記

- ・ 盲学校ボールゲームルール（第一集）
- ・ 札幌盲学校小・中学部体育科年間指導時数
- ・ アンケート

盲学校スポーツルール

—ボール・ゲーム—

(第一集)

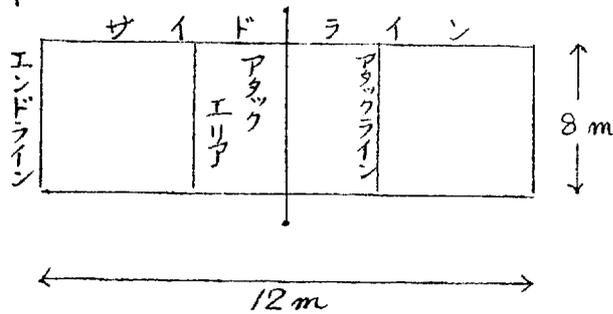
盲体育ボールゲーム研究会

目次

- (1) 151-ボール
- (2) 177-ボール
- (3) 177-ボール
- (4) 177-ボール
- (5) 177-ボール
- (6) 177-ボール

(1) 盲人バレー

1 コート



2 競技用具

- (1) 使用球は男子バレーボール5号、女子バレーボール4号を使用する。
- (2) 着衣類は金具のないものにし、軽装となるもの又は手掌を保護する意味から手袋の使用は認められる。
- (3) ネットは一般バレーボールの公認ネットを使用する。
高さ 1 m 06 cm

3 競技者及び位置

- (1) 1チームの選手数は6名ずつで、うち3名は全盲でなければならぬ。(全盲がいない場合は目がくしをする)
- (2) 競技者は大別して前衛と後衛とに別かれ、前衛には全盲、後衛には弱視が入る。
- (3) 控え選手はコートの外側のベンチに居なければならぬ。

4 正式競技

- (1) 正式競技は、3セットを行ない、2セット先取のチームを勝ちとする。但し、1セットは11ポイントとする。
- (2) 両チームはセット毎にコートを交換する。
- (3) 各セット毎に10オールの時にジューズを行ない、それ以降は2点先取を勝ちとする。

5 サーブ (サービス)

- (1) サーブ順は主将が試合前に主審に提出しておく。
- (2) 試合開始時のサーブ権は両チームの主将の間で決めておく。
- (3) サーブ順が守られなかった場合はチェンジ・サーブとなる。
- (4) 審判の合図を聞いてからサーブを行なう。
- (5) サーブを行なうプレイヤーは「いくよ! / いいがい」などの合図をする。
その時レシーブする側の主将は、用意ができしだい「OK!!」に相当する返事をしなくてはならない。又レシーバーの返事から5秒以内にサーブをしないと反則(オーバータイム)となる。

6 作戦タイム

- (1) 作戦タイムは主将又は監督が要求できるが、その際ボールがネットの場合に限る。
- (2) 要求できる回数はいセット2回、1回に1分間の要求ができる。

7 抗議・退場

- (1) 審判に対する一切の抗議は認めない。
- (2) 審判に対する質問は主将を通じて行なわなければならない。
- (3) 主審はラフな選手に対しては退場を命ずることができる。

8 得点 (ポイント)

得点はサーブ権のあるチームのヒット又は相手チームのミスにより加算される。

9 諸規則用語

次の場合は、サーブ権がうつったり、ポイントになる。

- (1) サイド・アウト (Side-Out) 打ったボールが相手チームのバックエリアでサイドラインを割った場合をいう。その際、審判は「何番、サイドアウト」と、最後に触れた選手の番号をいう。
- (2) エンドアウト (End-out) 打ったボールがエンドラインを割ることをいう。

- (3) ノーバウンド・ボール (No-bound-ball) 前衛の選手が打ったボールが、ネットの下を正規に通り、コートにも落ちず、コート内の選手にも触れずにラインを割ること。
- (4) オーバー・ネット (Over-net) ネット又はセンターライン又は、その垂直面より、ボールに触れている選手が手首以上、身体などの部分かを出した場合。
- (5) ネット・オーバー (Net-over) 打ったボールが、ネットの上端より上に浮いて相手側コートに入った場合。
- (6) ホールディング (Holding) 選手がボールを持ち上げることを云う。ボールを持つとは、両手又は片手又は身体などの部分かを利用して、空間で静止の状態にするが、落下速度に逆らうような押え方をした場合を云う。
- (7) ドリブル (Dribble) 同一選手が規定回数以上に連続してボールに触れる場合を云う。規定の接触回数とは、弱視は1回、全盲は2回とする。
- (8) キック・ボール (Kick-ball) 後衛が故意にボールを蹴り、それを防衛又は攻撃に使う場合。
- (9) オーバー・タイム (Over-time) ボールの接触回数が3回以内で相手コート内に返球できなかった場合、又ボールがアタックエリア内で3秒以上静止していたり、同一選手が3秒以上ボールに触れていた場合をいう。
- (10) ラインクロス (Line-cross, オーバーライン) サーブの際にエンドラインより前に身体が出た場合、あるいはラインを踏んだ場合を云う。又、後衛がアタックエリア内に入ったり、あるいはアタックラインを踏んだ場合を云う。
- (11) ヒット (Hit) 打ったボールが正規に相手側コートを抜けた場合をいう。
- (12) 方向指示 ボールの位置を示す言葉に値する事を行った場合。

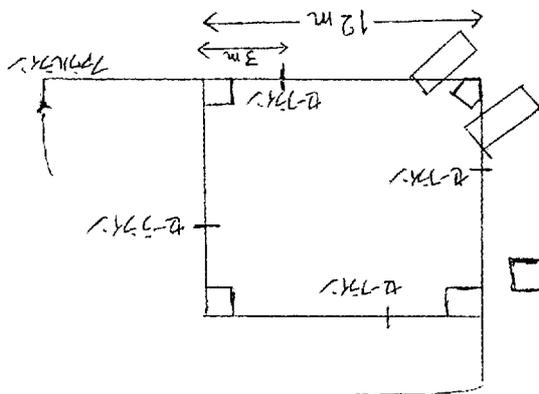
10 リターン Return

リターンとは、ゲームの接触回数が3回以内で相手コートに返球することである。

- (1) 全音の1回の接触とは「押えて打つ」である。但し、不意に味方のボールが触れるのは1回と見なさない。
- (2) 弱視はどんな方向、どんな場所、どんな部分が触れても1回とみならず。
- (3) 弱視同志・全音同志が同時に触れても、1回と見る。
- (4) 同一選手は続けて2回接触することができないが、ネットに当たった場合のみ再度触れることができる。

11 審判 (省略)

(2) ソフトボール



1. 競技場

2. 競技用具

- (1) ボールは鈴入りソフトボールを使用する。
- (2) バットは普通野球のバットに布をまく。(ボール保護、飛距離の軽減のため)

3. 競技者

- (1) 1チーム8名で守備位置は普通野球に準ずる。尚、キャッチャーはチーム進行上教師が当たる。
- (2) マンバ登録用紙を各チーム主将が試合10分前までに提出する。

4. 正式競技

競技は原則として両チームが5回の攻守を完了した後、双方の得点の合計比較してその総点の多い方を勝利チームとする。

5. コーチング

ピッチャーはフットワークとステップで軸足をピッチャーのフットワークから離れてはいけない。

6. スタライク・ゾーン

- (1) 全審……打者に対してこちらからボールを本塁にスライクを通過した場合はアウトとする。

- (2) 縮視……普通野球に準ずる(ゾーンは本塁にスライクをスライク、しかも打者は脚の裏から撥けて高さを要する)

7. アウト

- (1) 普通野球に準ずる
- (2) 全盲の内野手が内野において、いかなる方法によってもボールに触れてもバッターはアウトとなる。この場合、盗塁、盗塁、併殺プレーは行ないものとする。
- (3) 全盲が打ってセーフライン数着前にボールが塁とどいた場合アウトとなる。
- (4) 弱視はフンドで打ってはならないし、又盗塁はなし。

8. その他

- (1) 弱視は普通野球に準ずる
- (2) 全盲はゴロのボールを打ち、セーフライン(塁前3m)に致着すればヒーフトとなる。

6 競技開始

センターライン中央で両チーム一名ずつ出る「グリー」を行なう。グリーとはスティックを3回地上から離して打ち合い、ボールを争奪することを云う。

7 諸規則用典

(1) ロールイン ボールがサイドラインを割ったとき、最後にボールに触れたプレイヤーの相手のプレイヤーが、ボールが出た地点から、ボールを手で自由な方向にグラウンド内にこぼし入れる。

(2) 直接フリーストローク 次のような場合、直接フリーストロークが与えられる。これは直接ゴールに入っても得点となる。

イ、ゴール・ストローク 攻撃側がボールをゴールラインを越えて外に出したとき、ゴールエリアの半分内にボールを置いてスティックで打つ

ロ、コーナーストローク 守備側がボールをゴールラインを越えて外に出したとき一番近いコーナーの1/4円から攻撃側が打つ。

ハ、フリーストローク アタッキングエリア外での競技場内で不正な行為があった場合、相手側はフリーで打つことができる。この際反則を犯した側はその地点から4m以上離れなければならない。不正な行為とはホールディング（相手をつかむ）、ストラッキング（スティックで相手を打つ）、スティックアップ（スティックを腕より上に振り上げる）、トリッピング（相手をつまみ上げる）、カウルチェック（相手に危険な妨害をした場合）等という。

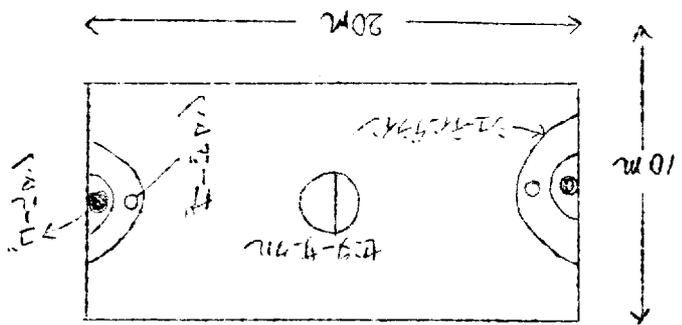
ニ、ペナルティ・ストローク アタッキングエリアで不正な行為があった場合、相手側に与えられる。キーパーと1対1で行なうもので、他の選手はゴールエリア外に出ているなければならない。

(3) 間接フリーストローク 故意に相手の進行を妨害した場合（オダストラクション）、オフサイド（現段階では未採用）の時に与えられるストロークで直接ゴールに入っても得点とはならない。

(4) ボール

ボールはバスケボールの競技内容であり、その要旨はバスケボールに準拠する。又、全盲選手はゴールポストに起用するために全盲生が2~4人いる授業に適する。

1. コート



2 競技方法

- (1) 1チーム3~6人、両チーム各1名ずつ出ているコートで試合開始する。

- (2) 競技時間は10分ハーフで間に5分休憩をとる。

- (3) シュートは味方からのシュートはゴールポストにシュートは相手コートにシュートはゴールポストにあること(捕えること)得点を与える。

- (4) 不正・不正行為には相手チームにシュートはゴールポストにシュートはゴールポストにあること(捕えること)得点を与える。

- (5) シュートは味方からのシュートはゴールポストにシュートは相手コートにシュートはゴールポストにあること(捕えること)得点を与える。

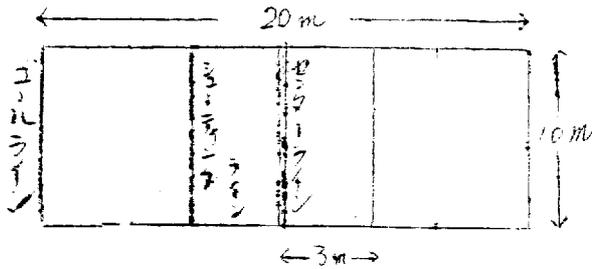
トランクルール
 フリール
 バスケのルールはバスケのルール
 (トランクルール) (シュートはゴールポストにシュートはゴールポストにあること) (シュートはゴールポストにあること) (シュートはゴールポストにあること)

(トランクルール)

(5) キック・パスゲーム

キック・パスゲームの競技は小学校高学年、及び中学校1年向きの教材である。少人数でもよく、体育学習の中で効率よく楽しくサッカーの基礎技術であるトラップング及びインサイドキックによるパスを習得させることにはねらいである。

1. コー ト



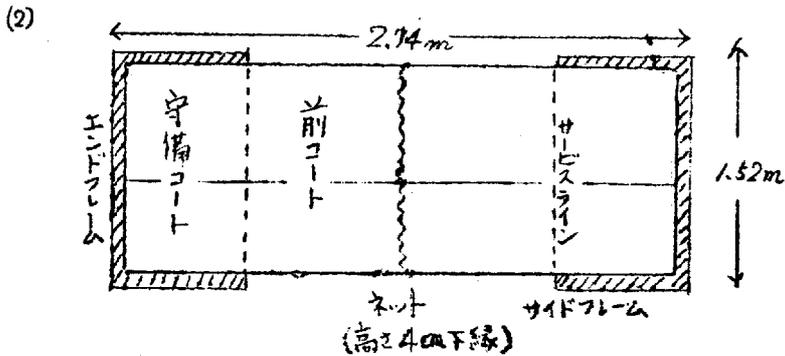
2. 競技方法 (7人制バレーボールに類似)

- (1) 1チーム3〜5名の選手
- (2) 両チームの主将各1名ずつ出でトスによりサーブ権を決める。
- (3) サーブはゴールラインの後ろからインサイドキックで行なう。
- (4) サーブされたボールは相手側の選手はトラップングしパスを行ないながら、センターラインの内側から蹴り込む。この場合3回を限度とする。但しここでの1回とは「トラップング→パス(インサイドキック)」の動作をいう。
- (5) 得点はシュート(たボールが①ゴールライン、②シューティングラインの後ろのサイドラインを割ったとき)1点を与えられる。また同時にサーブ権も得る。但しシューティングラインの手前からサイドラインを割った場合(サイドアウト)は相手側の得点となる。
- (6) ハンドリング、ドリブル、オーバータイム、ラインオーバー、等の反則行為も相手側の得点となる。
- (7) 15点先取した方のチームが勝ちとなる。

(6) 卓球

1 コート

(1) 規定したテーブルの上面をコートとし、それに規定したフレームが取り付けられたものを使用する。



2 競技用具

(1) ボールは日本卓球協会指定球(硬球)を使用し、その中に長さ2mmぐらいの鋼を入れる。

(2) ラケット (普通卓球使用のもの)

3 フレー

競技者が、ネットの下を通り、その競技者の守備コートに達するか、又はエンドフレームにタッチしようとする球と自陣コート内で相手側の守備コートに達するか、又はエンドフレームにタッチしようとする球として打ち返すことをくり返すプレーである。すべてボールはコート上をころがるように打たれなければならない。

4 シングルス

(1) 勝敗 1ゲームの勝敗は11点を先取した競技者を勝とする。ただし10オールの時はジユースとし2点連取した方を勝とする。

(2) エンド及びサーバーの決定 エンド及びサーバーまたはレシーバーの選択は各マッチごとにジャンケンで決める。

(3) サービス サービスをするとき、サーバーは自分の守備コートのほぼ中央に球をおき手を球からはなして「行くよ！」

の声をかける。その時レシーバーは必ず「OK」の返事をする。返事を聞いてからそれ以内にはサービスを行わなければならない。

サービスを行おうとき、サーバーのラケットがボールに当たる位置は守備コートのおよそ中央でなければならない。また球はネットの下をくぐり、相手側の守備コート内に入るが、またそのフレームにタッチするように打たなければならない。

(4)リターン リターンとは競技中にサービスされたボール又はリターンされたボールがネットの下をくぐり、直接相手側の守備コートに達するように打たれたものをいう。

(5)ネット・イン ネットに触れてもネットの下を通るボールはすべて有効とする。

(6)サービス・チェンジ ノゲーム中サービスをチェンジするときは、双方の得点の和が5の倍数になったときである。又ジュース後はノ点を加えたときサービスチェンジを行おう。

(7)レット 次の場合レットとしてカウントしない。

① サーバーが「行くよ」の声をかけないとき、又はレシーバーが「OK!!」の声をかけないうちにサービスが行われたとき

② ⑧の失策を競技者が不可抗力の事故のためにしたとき

(8)ノー(失策) 次の場合はノー(失策)として相手方に1点を与える。

① サービスをするときにラケットを空振りしたとき

② ボールがネットの下をくぐらなかつたり、サポートに触れたとき

③ ボールが相手側コートに達しなかつたとき

④ サービス又はリターンされたボールが自陣コートで静止したとき

⑤ 相手のエンドフレームにタッチしてその第一バウンドの位置が相手側の自陣コート又は相手側のフレーム上でないとき

⑥ ボールインプレー中、競技者のフリーハンドがコート上でボールにふれたとき。

5 ファウルス (省略)

盲体育ボールゲーム研究会

事務局 札幌市中央区山元町1-8-9 /
札幌盲学校中学部内
盲体育ボールゲーム研究会

代表 岡田吉生

研究員 鈴木重男

国方啓一

川崎聖夫

高橋信裕

玉田順一

札幌盲学校小中学部 体育科年間指導計画

1 指導目標

〈小学部〉

- ・運動文化の伝達
- ・体力の向上
- ・精神的、身体的、社会的態度の健康

〈中学部〉

- ・健康で強く明るく、すすんで取り組んでいこうとする態度の養成
- ・正しいマナーと学習習慣を身につけさせる。

2 年間指導計画の基本的考え方

- (1)多くの運動文化を指導
- (2)スポーツ的種目の指導
- (3)余暇の善用の指導
- (4)体力の向上をめざす
- (5)未開拓のホールゲームを通し創造的の態度を育成

3 年間指導時数表

〈小学部〉

学習内容	時数	学習内容	時数
体操	9	球技	30
器械運動	9	ポ-トボール	6
陸上競技	21	フットボール	6
ダンス	6	ソフ-トボール	6
水泳	3	卓球	6
スキー	12	ロケットボール	6
スケ-ト	6	保健	9

計 105単位時数

〈中学部〉

学習内容	1年	2年	3年	学習内容	1年	2年	3年
体操	6	4	4	器械運動	15	10	10
陸上競技	9	7	7	水泳	10	11	11
球技	49	33	33	スキー	12	11	11
バレー	17	11	11	スケ-ト	12	11	11
バスケット	8	5	5	ダンス(女)	9	4	4
野球	9	6	6	格闘技(男)	9	4	4
サッカー	9	6	6	体育知識	6	3	3
卓球	6	5	5	保健	0	35	35

合計 125単位時数

(他、体育的行事 20時数)

尚、新指導要領総則〈第三〉に関して、本校では2・3校時業間25分間において体育的内容の指導をしております。